

バスに関する事例紹介

- ①岐阜市(岐阜県) ～ 放射状の幹線バスの強化と、コミュニティバスのネットワーク化 ～
- ②幸田町(愛知県) ～ 新駅設置を契機に鉄道駅を軸としたコンパクトなまちづくり ～
- ③豊山町(愛知県) ～ 行政区域にとらわれない広域的な視点でのバスサービスの提供 ～

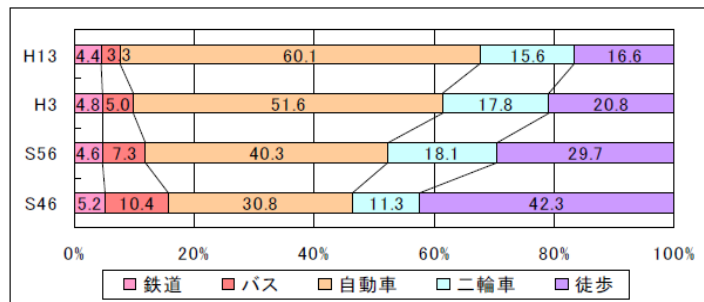
①岐阜市の事例

★事例のポイント

- ・放射状のバス路線と岐阜市型BRT導入による軸の強化
- ・支線バスとコミュニティバスのネットワーク化

課題

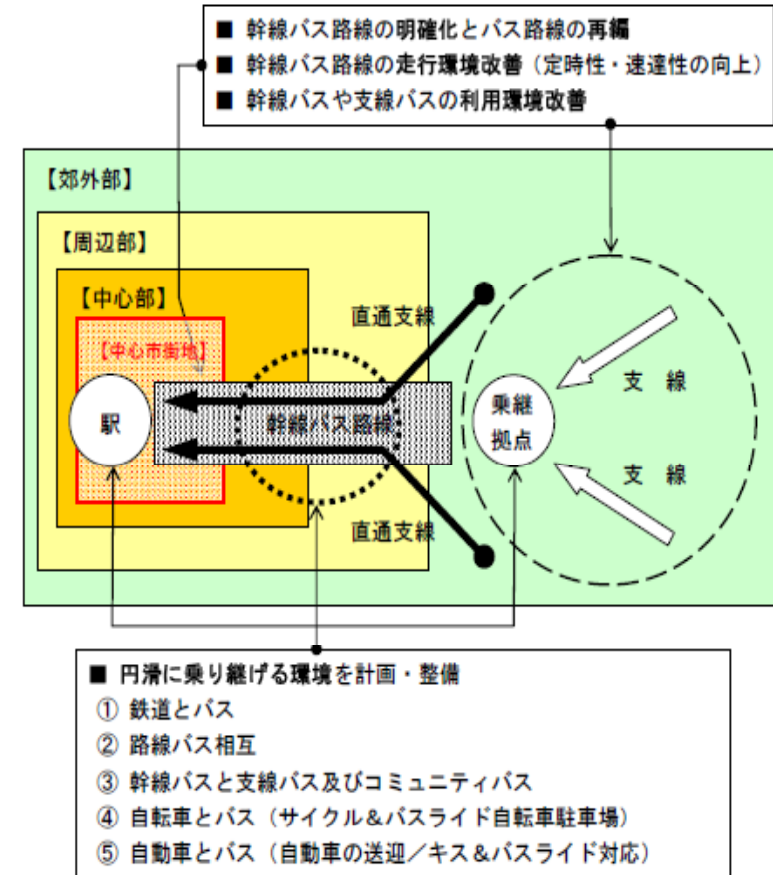
- ・郊外に大規模店舗などが乱立し、中心部の利便性が低下
- ・居住人口が減少し、中心部の空洞化が進行
- ・増加する自動車交通



資料：第4回中京都市圏パーソントリップ調査

代表交通手段別構成比の推移

◆目標実現のための基本方針



<公共交通のサービス目標>

- わかりやすい基幹公共交通軸（幹線バス）の実現
- 幹線バス路線での速達性、定時制の向上
⇒ 岐阜駅から10Km圏を30分で到達
- 公共交通空白域の解消
⇒ 路線バスを補完するコミュニティバスの導入

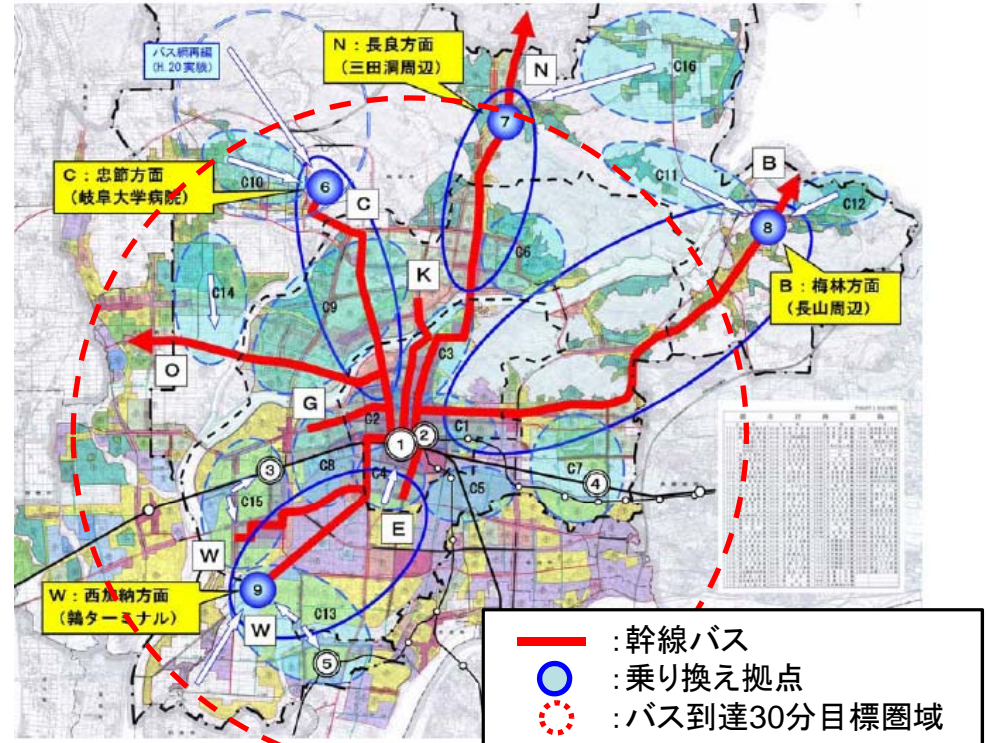
①岐阜市の事例

①バス路線の再編と乗り継ぎ拠点整備

- 8つの幹線バス路線を設定
- 4つの乗り継ぎ拠点(トランジットセンター)を計画・整備し、ネットワーク化を図る
- 8幹線においてバスレーンやPTPSの導入を推進

バス路線の分類と幹線バス路線

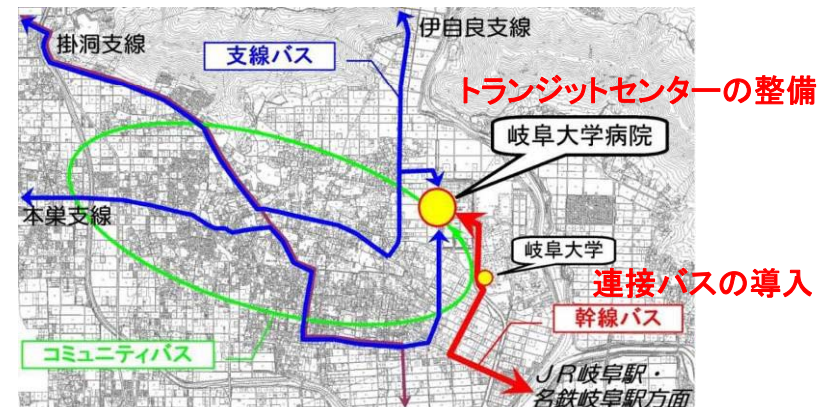
路線分類	路線の役割	幹線バス路線
幹線バス	【将来都市像との関連】 ・岐阜市の将来都市像の骨格を形成する“根幹的なバス路線” 【バス路線としての機能】 ・岐阜市と周辺都市を連絡する“広域的なバス路線” ・岐阜市内の主要なバス路線	B: 梅林方面 N: 長良方面 K: 金華方面 C: 忠節方面 O: 大縄場方面 G: 鏡島方面 W: 西加納方面 E: 東加納方面
支線バス	・幹線バスのフィーダー的な役割のバス路線(駅への直通支線を含む)	
コミュニティバス	・路線バスを補完し、地域内の移動を確保	



②【社会実験】岐阜大学病院を核とする路線再編

- ・幹線バスの増便(運行間隔は10分以内)
- ・支線バス、コミュニティバスとの乗り継ぎの強化

(実験の効果)・幹線バス利用者数が前年度より11%増加
 ・岐大病院停留所利用者数が前年度より19%増加
 (今後の課題)・幹線バスの遅れによる幹線から支線への接続が悪い



②幸田町の事例

【背景】

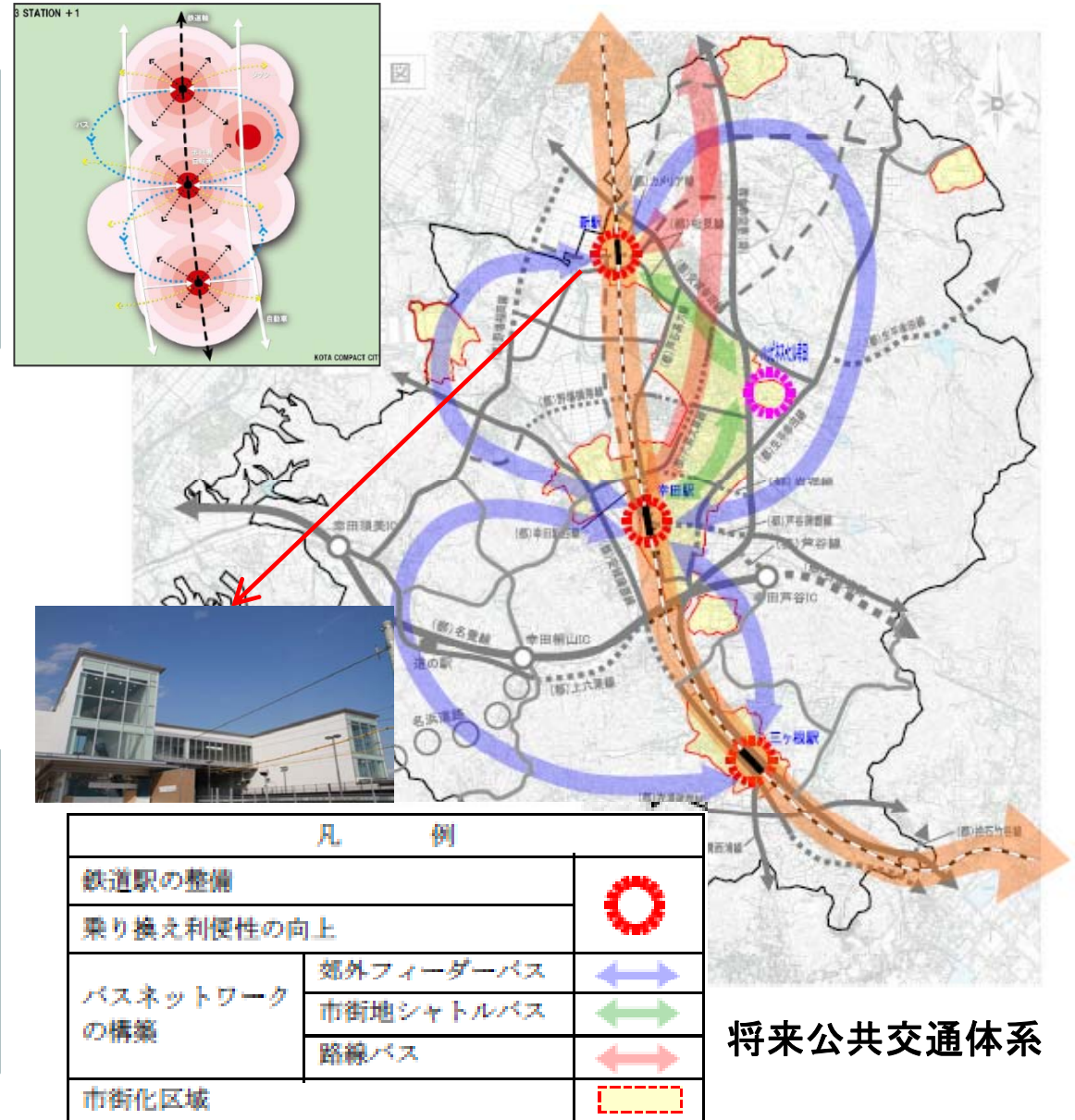
新駅設置（H23年度）が決定し、町内都市部のほとんどが駅から2km圏域に入ることにより、鉄道駅を軸とした総合交通戦略を策定

【課題】

- ・人口増加による市街地の拡散が進行し、行政コストの拡大とサービスの効率性の悪化
- ・自動車の交通手段分担率が68%と高い状況

【将来像～戦略目標】

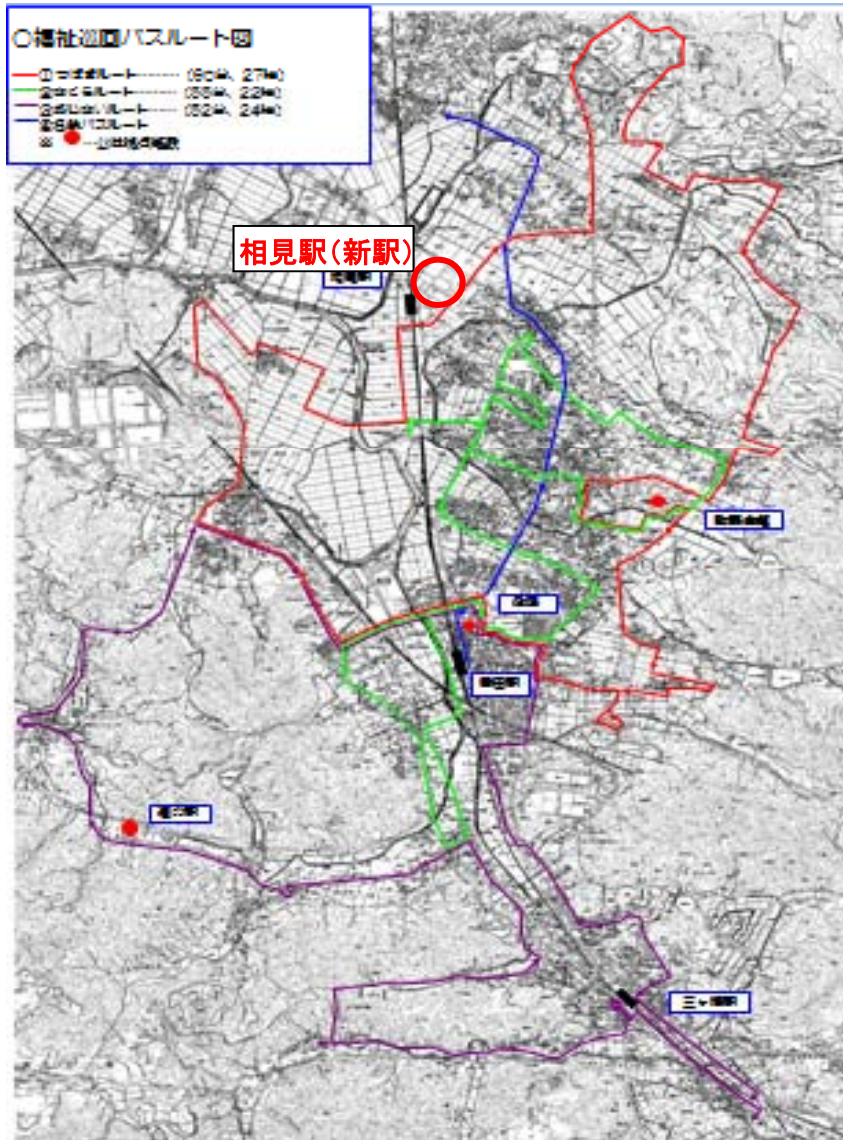
幸田町は3つの駅（新駅、幸田駅、三ヶ根駅）を中心とした住宅地、商業地、業務地が広がっている。
⇒「**鉄道を軸としたコンパクトなまちづくり**」を目標とする。



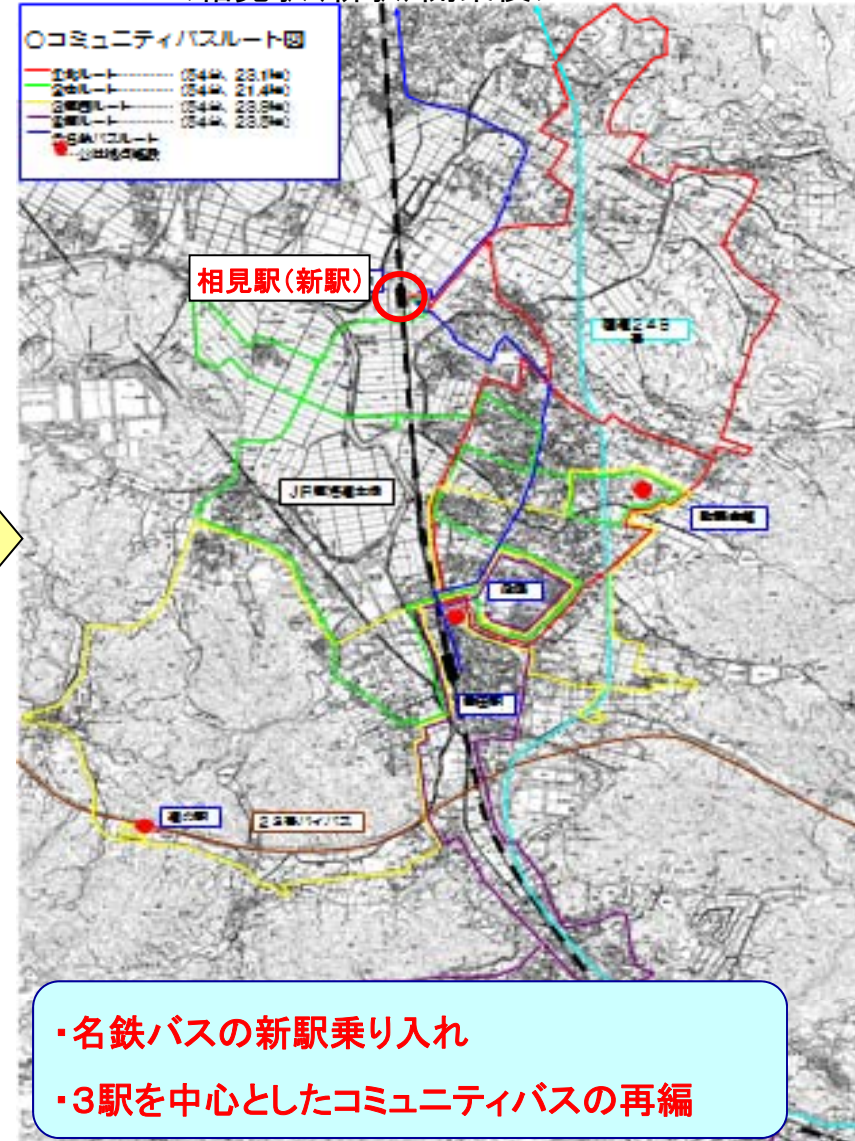
将来公共交通体系

②幸田町の事例

<相見駅(新駅)開業前>



<相見駅(新駅)開業後>



③豊山町の事例

★事例のポイント

- ・行政区域にとらわれず、広域的な視点での利用者の需要に応えるバスサービスの提供
- ・利用者の真の声を聞く努力や、官民区別のない一体的な広報の実施

小牧市民病院、小牧市役所

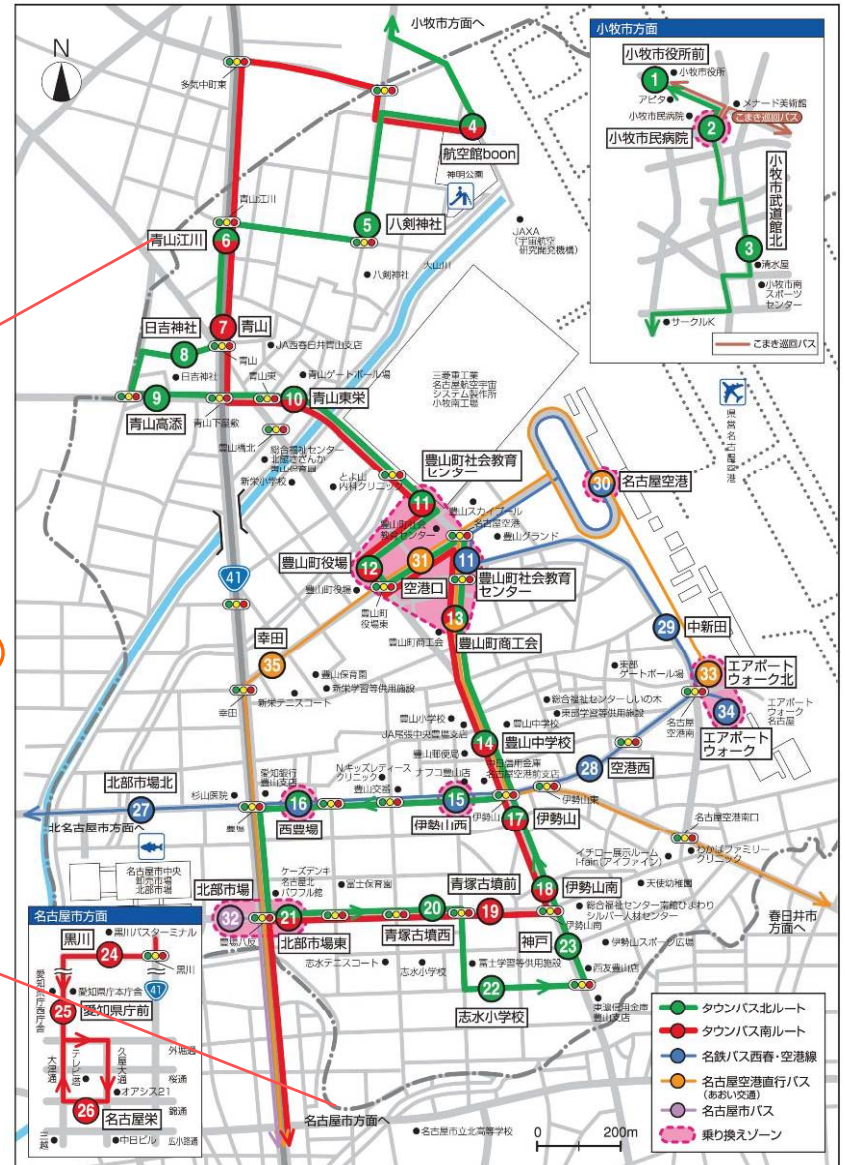
タウンバス北ルート

タウンバス南ルート

隣接市中心部との接続

愛知県庁(名古屋市役所)、名古屋栄中心部

◆とよやまタウンバス路線図



③豊山町の事例

【背景・課題】

- ・鉄軌道が無い上、近隣市中心部までのバス路線が撤退（平成14年）
- ・当時は“陸の孤島”といわれ、公共交通網が極めて脆弱
- ・アンケート調査などにおいて、通勤・通学時の近隣市中心部まで直接アクセスできる生活交通の確保に関する強い住民要望

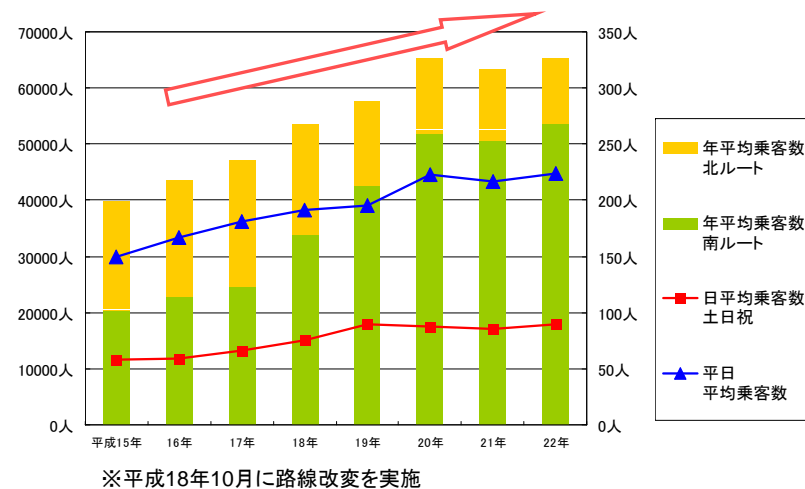
【施策例】

- ・**陸の孤島の解消**
近隣市との協議調整にあたり、町営バスであるが自らの**行政区域内にとられず、近隣市中心部へのバス路線開設、バス停設置を実現**
- ・**町営バスと民間バスの案内情報の一体化**
公共交通マップには、町営バス（とよやまタウンバス）のほか、民間のバス路線や時刻表・運賃表も併記し、目的地に合わせた最適なバス路線を掲載
- ・**「本音」のニーズを把握**
町内3箇所で**飛び込みのグループインタビュー**（5人～7人で15分程度）を実施し、アンケート調査では把握できない詳細な住民ニーズを把握
⇒ニーズ把握等を通じて**継続的に（少なくとも2～3年に1度）バス運行を見直す**ことが重要

【施策効果】

- ・左記の取組みや改善によって、町営バスの利用者増加につながっている。
- ・また、グループインタビューが住民に対する町やバスの広報・PRにも寄与している。

◆とよやまタウンバスの年間利用者数の推移



とよやまタウンバス